

平成 21 年 11 月 27 日 (金)

シンポジウム・遺跡資料リポジトリ (事例報告)

遺跡資料リポジトリ構築に向けて：香川県域を回る

香川大学図書館 岩澤尚子

1. プロジェクト参加の経緯

島根大学が代表となって採択されたプロジェクト：平成 20-21 年度国立情報学研究所 C S I 委託事業「遺跡資料リポジトリの構築：中国 5 県域から広域連携へ」に、平成 21 年度より香川大学も参加することとなった。平成 21 年 2 月 26 日に開催された「遺跡資料リポジトリ・セミナー」に本学の遺跡関連教員と共に参加したことがきっかけとなり、地域貢献の一つとして香川県遺跡資料リポジトリ構築に向けて動き始めた。

2. 自治体への説明方針

当初は、遺跡専門担当部署がありそうな自治体への説明から始めようと考えていたが、香川県は県市町合わせて 18 ヶ所で面積的にも狭いことから、全ての自治体への説明を目標とした。また、なるべく訪問して、直接顔を合わせて説明することを目指した。

3. 自治体への説明方法

(1) 担当者へのコンタクト

学内関連教員の協力を得て、知り合いの自治体担当者を紹介してもらおう。それ以外は HP 等で調べて直接文化財担当へ連絡を取り、訪問のアポイントメントを取る。

(2) 説明資料

・島根大学作成のパンフレット「遺跡資料リポジトリ～発掘調査報告書の電子化・保存・公開推進のために～」

・目的・機能・お願いしたいことなどを簡単にまとめた本学作成資料（前年度参加館作成資料を参考）

(3) 説明内容

- ・「リポジトリ」とは何か。
- ・「遺跡資料リポジトリ」とはどのようなものか。
- ・メリットは何か。
- ・まずお願いしたいことは発掘調査報告書の提供。
- ・今後は、印刷する場合の PDF ファイル提供。
- ・実際の手順。（今年度の資料遡及 PDF 化は予算あり）
- ・公開に当たっての注意事項。（著作権等）

4. 実際に説明に回って

(1)結果

説明期間：平成 21 年 7 月～10 月

18 自治体中、13 自治体訪問+5 自治体資料郵送

13 自治体協力+5 自治体該当なし

(2)意見・感想等

- ・発掘等に携わっている専門の担当者からは、特に歓迎された。
- ・抄録のないものについて協力を申し出てくれた担当者がいた。
- ・今後、経費が発生しないか心配する声があった。
- ・県内担当者間のネットワーク構築を期待する声があった。
- ・著作権許諾や確認方法に関する取り決め等を文書で定めている例があれば知りたいという要望があった。
- ・二次利用などに関する注意事項について、利用者に周知する方法を検討してほしい。
- ・遺跡発掘資料以外の、例えば文化財修理報告書を登録することは可能かとの質問。

5. 今後

- ・サーバ構築作業がほぼ終わったので、今後実際に登録作業を行う予定。
- ・テスト公開後、自治体担当者への説明会を開催する。(もしくは説明に伺う)
- ・来年 4 月正式公開を目指す。

6. その他

- ・図書館から外へ出る機会—しかも地域へ出て説明をするという経験は貴重。
- ・お互いに漠然と感じていた敷居が低くなった。
- ・「地域に根ざした大学」を目指している大学にとっても、適切なプロジェクト。
- ・県内関係者とのネットワーク構築につなげたい。

